

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	弘前大清水学園		
○保護者評価実施期間	2024年12月11日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2024年11月16日		～ 2024年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 27
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 2月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が普段過ごすクラスの他に、特性に応じ、個別に対応できる部屋や環境が整っている。	運動や手指課題など活動や目的に合わせて部屋を分けて支援している。また、子どもに合わせてスケジュールを提示したりわかりやすい環境づくりを心がけている。	引き続き、活動や目的別に場所を分けて、子ども達にとってわかりやすく過ごしやすい環境づくりを目指していく。また、定期的に場所を活かした活動内容の見直しを図る。
2	地域の子どもや放課後等デイサービスに通う子ども達と交流できる。	療育活動にインクルーシブ活動が位置付けられており、地域の子どもたちと月1回交流している。また、放課後等デイサービスに通う子どもたちとも交流を持つ機会を設けている。	交流頻度や内容の見直しを図りさらに充実した交流が出来るようにしていく。
3	専門的な支援を共有し支援に活かすことができる。	職員間で話しがしやすい環境にあり、多職種の職員が様々な資格を持って支援しているため、心理担当職員や作業療法士などから専門的な助言を得て支援を行っている。	職員間で支援に関して意見交換しやすい雰囲気づくりを心がける。引き続き、作業療法士等からの助言を活かしながら支援に繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	担当以外の業務を全体で共有する難しさがある。	利用児や支援に対する共有は出来ているが、業務内容に関しては、職種の幅が広く、それぞれ勤務時間の都合があるため共有の場や時間の確保が難しい。	担当以外の業務について全職員を対象に園内の職員研修を利用し、自分の仕事かどのように繋がっているのかまた、関係しているのかを知り職員一人ひとりの意識が高められるよう取り組んでいく。
2			
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 弘前大清水学園

公表日 2025年 2月20日

利用児童数 40

回収数 37

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		
						ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	37				子どもが広々とした空間で活動できるように配慮されている		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	35	2			子どもの人数に合わせた職員の人数が配置されている	配置基準は満たしております。活動状況によりクラス以外の職員も配置し対応しております。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	36	1			視覚教材が用いられて子どもたちが理解できるよう工夫や配慮がされている	窓々の特性に合わせてわかりやすく生活しやすい環境となれるように今後も向上に努めてまいります。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35	1	1		・清潔であると感じる。明るく心地よく過ごせている ・一人ひとり子どもの温度は違うので部屋の温度調節などをもっとしてほしい	清潔で心地よい空間であるように環境整備や清掃はしておりますが再度丁寧に整備点検してまいります。	
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	1			個々の発達や特性に合わせた支援を受けることが出来ている	職員を積極的に園内外の研修への参加を促し専門性の向上に努めてまいります。様々な職種のスタッフで複数の視点で支援できるよう対応してまいります。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	37						
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	37					学園・家庭での様子を共有し保護者の要望も聞いて真いながら子どもの課題に合わせた支援計画を作成してもらっている	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	36	1					令和6年4月からの改定を受け、10月から5領域を踏まえた支援計画を作成し、支援しております。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	37					・適切な支援を行っていると思う ・今年の個別指導も担当の先生が子どもに合った教材を準備してくださり熱心な指導で子どもすごく楽しそうでした	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	35	1		1		子どもに合わせた支援が行われていると思う	子どもの特性を踏まえ、活動のプログラムを計画しております。適の中で療育活動の他、社会体験療育の園外活動や季節の行事など様々な経験が出来るよう計画し実施しています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	36	1				インクルーシブ活動で交流を持つ機会が設けられている	来年度も引き続き、毎月1回、敷地内にある大清水園子ども園と交流の機会を設けてまいります。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36	1			丁寧な説明を受けた	契約時に説明しておりますが、今後もわかりやすい説明を心がけてまいります。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	36	1				様々な情報(ペアトレ、勉強会、学校見学会等)を提供されている	今後毎月計画して参りますが、日程を早めに伝えるなど周知方法も工夫して計画していきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	37					連絡ノートや個別指導等で情報交換を行いながら共通理解を図ることができている	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	1				個別面談の日時を土曜日の午前中に組んでもらえると助かる	今後毎月1回以上の個別面談を継続して行いますがこれに限らず、日程の調整や相談がある時は対応いたしますのでご連絡なく申し出て下さい。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	36	1				・十分な支援を受けている ・いつも相談やアドバイスを頂いています	保護者の方のご意向とお子さんの姿を照らし合わせながらより良い育ちのサポートができるよう努めてまいります。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	36	7	1	3		・育成会や茶話会など保護者の交流を深め、情報交換や相談する機会が設けられている ・夕涼み会的なイベントに兄弟の参加を認めている。 ・きょうだいが参加できる行事が少ないと思う、 ・運動会や発表会をきょうだいい見たいがあるので見られないのは少し残念です。	ご家族やご兄弟が参加できる行事は年1回お楽しみ会を開催しております。その他の行事に関しましては利用しているお子さんと親御さんとの時間を待つという主旨もご理解頂けるようお知らせし、取り組んで、まいります。また、今後ご兄弟が交流したり、参加できる行事等を検討いたします。育成会(保護者会)に関しては、保護者の方の横の繋がりが持てる貴重な機会ですので、育成会の活動がスムーズ行われるよう学園としても出来る限り協力してまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33	4			リハビリの件について連絡ノートに書いた際にお忙しい中、時間を取って下さってじっくり相談できて安心できました	月1回の面談以外に、随時ご相談をお受けできるよう対応しております。保護者の方にも周知し、相談の対応を早く行ってまいります。いつでもお声がけください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35	1		1	クリスマス会や運動会をなるべく土曜日に行ってもらいたい	今後とも、お子さんの発達と一緒に確認しながら育ちを支えてまいります。保護者の方の要望にもできる範囲でお応えしたいと考えていますが、学園の方針にもご理解頂けるよう努力してまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	34	1	1	1	学園だより等で保護者に情報を伝えてくれる	活動の様子は園だより等で毎月お知らせしていますが、連絡はお手紙やメールでお知らせしていますが学園だよりもメール等で送れるよう検討いたします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	36	1				個人情報については年度初めに保護者の方にアンケートを実施し管理しております。取り扱いについては引き続き徹底して取り組んでまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	36	1			子ども達には避難訓練、不審者訓練を行っている。保護者は引き渡し訓練での対応の確認を行った	お子さんの安全対策として毎月1回の防災訓練、不審者対応訓練に加え、今年から災害時を想定した引き渡し訓練を実施しました。保護者の方への周知については、保護者説明会の場で周知に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	37				子ども達には避難訓練、不審者訓練を行っている。保護者は引き渡し訓練での対応の確認を行った	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	37				十分に安全の確保が出来る	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	37					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	37				学園での出来事をたくさん話してくれる。安心して過ごしていると感じる	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34	2		1	・特に行事がある時は楽しみに登園している ・時々ハイハイしますが、行ってしまえばニコニコしているみたいなので楽しんでいると思います。	お子さんが通園を楽しみに、期待感を持てるような働きかけを心がけていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35	2			・子どもの姿をよく見て、子どもに合わせた支援・活動を受けることが出来て大変満足しています。 ・初めに想像していた以上の支援があり大変有難く思っております。 ・職員の方がとてもあたたかいです。 ・利用時間を長くしてほしい。 ・親と一緒に学ばせてもらっています。感謝がありません。	皆様からのご意見をもとに、満足して頂けるよう今後も向上に努めていきます。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	弘前大清水学園	公表日	2025年 2月20日
------	---------	-----	-------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	27			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	24	3	毎日子どもの出席数に合わせて、職員数を配置していた。	配置基準は満たしています。活動状況により補助の先生に入ってもらい対応しております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	27		室内の掲示物を減らし、場面に合わせて視覚支援を取り入れることが出来ている。また、階段の高さが低い為、歩行が不安定な児童も昇降しやすい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	24	3	降園後、清掃ならびに消毒を行っている。かばん掛けの位置が高いため、手の届く位置にフックを付けたり工夫している。	引き続きこまめな換気や丁寧な清掃を心掛けていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	27		必要に応じて別室で使用し個別の対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	24	3	クラス会議や職員会議で振り返りや話し合いをしている。振り返りの機会を多く設定している。	クラス毎や各係だけではなく全体で共有し進められるよう引き続き取り組んでいきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	27		職員間で共有し、改善に向けた話し合いを実施している。評価以外にもご意見を頂いた時には検討し、改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24	3	機会として特別設けているかは別として職員が意見しやすい環境にある。	意見を把握する場はあるが、業務改善に繋げられるよう努めて参ります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	22	5		現時点で第三者による外部評価は実施していないため外部評価を検討します。保護者と職員の評価には対応し業務改善に取り組んでおります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	27		園内・園外研修の機会が多く学びが深まっている。経験年数に合わせた研修の機会を設定している。	
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	21	6		現時点で作成されておらず、次年度に向けて作成しております。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	27		サービス等利用計画や家庭での姿なども聞き取りながら計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	27		クラス職員と児発管が参加する策定会議で検討されクラスでの様子や保護者の意向も共有しながら作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	26	1	毎月のクラス会議や月ごとの支援記録で支援計画内容に対する支援内容や、子どもの様子を記録し状況確認を行っている。	今後も児童発達支援策定会議を行い、複数の視点で確認、評価しながら取り組んで参ります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	26	1	S-M生活能力検査や感覚プロフィール等標準化されたアセスメントは心理師に評価してもらい、支援に活かしている。	子どもの状況を適切にアセスメントし、アセスメントツールを使用しながら客観的な分析を基に支援に繋げられるよう取り組んで参ります。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	27		報酬改定に伴い書式を変更している。5領域の具体的な内容になり支援しやすくなった。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	25	2	クラスや全体での取り組み（方向性）を確認しながら立てている。	計画を立案する段階でクラスの職員間で共有し組み立てられるよう努めます。

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	25	1	子ども達の状況を考えながら様々な経験が出来るよう立案している。	今後も様々な活動や分野に触れる機会を作るために運動、社会性、感覚、音楽リズムなどを盛り込んで工夫します。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	27		年齢や子どもの状況を把握しながら個別で取り組む活動、小集団で経験する活動等を意識し取り組んでいる。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	26	1		事前の週計画の申し送りや、朝のミーティングでの情報を各職員が意識的に捉え、クラス間での情報共有を徹底します。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	23	4	活動内容に対しての子ども達の様子や行動についてクラス間で共有出来ている。	気づいたことや児童への支援を振り返り、時間を設け情報共有を行い次の支援へ繋げられるよう取り組んでおります。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	26	1	毎日の療育記録、月に1度の支援記録をとっている。年4回ケース検討会を開催し支援について職員間で検討・共有している。	引き続き日々の記録と、支援の状況についてケース検討会議を行い改善に繋げられるよう努めて参ります。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	25	2		支援計画は半年に1回保護者と面談し、見直しを行っております。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	26	1	関係機関との会議にはクラス担当の他、主任や児発管の2名で参加している。	引き続き子どもの状況を把握している職員が会議に参加するよう努めて参ります。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	26	1	年1回以上は関係機関（主に医療と保育）と情報共有の場を設定し連携し、支援を行っている。	地域の保健・医療・障がい福祉・保育・教育等の関係機関と連携をとり支援を進めて参ります。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	1	年1回の訪問での情報交換の他に必要に応じて電話等でも情報共有している。	今後も併行先や移行先に定期的に訪問しながら当園での併行通園や移行支援への取り組み内容など理解して頂けるよう連携をとりながら取り組んで参ります。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	1	就学先の職員が園の様子見学を行い情報共有を図っている。	現在も実施されている通り、新しい環境にお子さんがスムーズに移行できるよう、支援内容の情報共有を行い相互理解を図るよう努めて参ります。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	19	8		弘前市の発達支援事業に市内の児童発達支援センターや児童発達支援事業所が協働で携わっております。
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	20	7		専門の先生から活動に対し助言及び支援に対してのフィードバックをして頂き日々の支援に活かしております。
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	19	8		管理者が自立支援協議会子ども部会のメンバーのため、会議開催時は参加しております。
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	27		同法人の弘前大清水藤子ども園とインクルーシブ活動で定期的に交流できている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	27		連絡帳、個別指導、面談の他にも必要に応じて電話等で伝えるようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	27		毎年、ペアレントトレーニングの研修を企画し、保護者に参加を呼びかけ実施している。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	27			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	27		作成前に保護者と面談し意向を確認している。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	27		保護者と対面で説明し、保護者の意向と子どもの姿に合っているか確認し同意を得ている。	

保護者への説明等

38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	27		相談には随時応じている。	
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	26	1	クラスレクや行事等、保護者の交流も意識しながら計画を立てている。	保護者に向けた勉強会の他、クラス行事や懇談会、行事等で保護者同士の機がかりを支援するための機会を設けるように努めます。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	27			
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	26	1		園だよりは毎月発行しておりますが、メール等を活用して発信できるように検討します。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	27		取扱いには十分気をつけている。	
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	27		言葉にジェスチャーをつけて伝えるなど一人ひとりに合った方法でコミュニケーションをとっている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	26	1	5月に音楽鑑賞会を開催した。	今後も地域の方に施設を開放し地域貢献また、施設への理解に向けて進めて参ります。

非常時等の対応

45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	26	1	今年度は引き渡し訓練を実施したことで保護者にも今まで以上に周知できたのではないか。	今後も継続して取り組みます。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	21	6		計画を策定していますが、訓練は今後取り入れて参ります。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	27	0	服薬状況や量の変更、発作について職員間で共有されている。	
48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	27	0		
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	27	0		
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	27	0		
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	27	0	毎月の職員会議で共有されている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	27	0	虐待防止においては園内研修の他、毎月の会議でも必ず取り上げて確認している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	27	0	身体拘束についての説明や計画への記載が徹底していた。	